

拠点組織づくり強化へ

みやぎ防災・減災円卓会議総会

いのちと
地域を
守る

東日本大震災の教訓伝承や防災啓発の強化を目指す連携組織「みやぎ防災・減災円卓会議」は27日、本年度の総会を仙台市青葉区の河北新報社で開き、設立2年目以降の活動方針を決めた。発信拠点となる組織づくりなど三つの目標の具体化に向けて議論を深める。

石巻市など沿岸の被災自治体が新たに参加するなど登録は66団体に増えた。総会には登録者116人のうち約70人が出席。世話人の今村文彦東北大災害科学国際研究所長は「発足から2年目を迎え、本格的な活動に入る。どう連携できるかを議論したい」と述べた。

づくり②幅広い連携と語り部の育成、イベントの検討③報道機関と研究機関の交流の3点について具体化を目指すことを決めた。

人、町内会、経済団体、報道機関など45団体70人の登録で発足した。月1度の例会のほか、国連防災世界会議から1年を記念した3月の「仙台防災未来フォーラム」に参加し、「被災地発の防災連携発信の可能性」をテーマに意見交換した。事務局は河北新報社防災教育室。連絡先は022(211)1591、メール entaku@pookahok.u-co.jp



多様な登録団体のメンバーが実践的な活動に入ることを確認した円卓会議